

平成21年度 学校評価結果

(平成22年3月)

兵庫県立東灘高等学校

学校教育目標	<p>「落ち着いた学校」、「あたりまえのことが、あたりまえに行える学校」を目指す。</p> <p>(1)基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲の育成と個性を生かす教育を充実する。</p> <p>(2)生命の大切さや思いやりの心を育て、共に生きる社会をめざす福祉の心を育成する。</p> <p>(3)健全な精神と身体の養成を図り、社会の変化に柔軟に対応してたくましく生きる人間を育成する。</p>	重点目標	<p>・「魅力ある学校、活力ある学校」をモットーに、明るく、元気な校風の樹立に努める。</p>
			<p>・学校・家庭・地域・同窓会・関係機関との連携・協力を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。</p> <p>・人間的なふれあいに基づく指導を通じた、規律ある生活態度を育成する。</p> <p>・教職員としての豊かな人間性の滋養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざした研修の充実を図る。</p> <p>・震災から学んだ教訓を確実に語り継ぎ、それらを踏まえた防災教育の充実にも努める</p>

【共通項目】 4...よくできた 3...できた 2...あまりできなかった 1...できなかった

領域	評価の観点	番号	評価項目	実践目標と成果		評価
学校運営	開かれた学校づくり	1	家庭や地域への情報発信	実践目標	保護者への学年通信の発行、ホームページの更新等を通じて様々な新しい情報を発信する。	3
				改善策	昨年度より、生徒の様子を行事毎にホームページで発信できた。来年度は、学年通信、学校の広報誌等の情報発信の充実を図る。	
		2	学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	実践目標	学校評議員会を年間3回開催し、学校運営に関しての説明及び授業を公開することにより、学校関係者による学校評価を推進する。	2.6
			改善策	年間3回開催を行うことができた。職員・生徒の様子が分かる資料・データを提示し、学校関係者評価の充実を図る。		
		3	地域に信頼される学校づくりの推進	実践目標	普段から全教職員が、頭髮、服装等の規則違反の生徒に声をかけることにより、しっかり規則を守る生徒を育成する。	2.8
			改善策	2月に実施した「服装指導教科月間」は、かなり効果があった。来年度も継続していきたい。		
	生徒指導	4	生徒指導方針の確認と生徒指導体制の推進	実践目標	生徒指導部が中心となって、全教職員と共通理解を図るために会議、研修会を行い、情報を提供する。	2.7
				改善策	生徒指導部会を定期的に開催し、情報の共有を図る。	
		5	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	実践目標	・個人面談を実施するとともに、家庭と密接な連携を図り、家庭訪問も適宜行う。 ・心のサポート委員会を中心に、職員研修会を実施し、生徒の内面理解を図る方法の共有化を図る。	2.8
			改善策	全学年で、「面接週間」を設定する。		
		6	生徒の自主・自立の精神を育む指導の工夫	実践目標	生徒会活動やホームルーム活動に自主的に取り組み、高校生地域貢献事業、学校行事を推進する。	2.7
			改善策	各委員会活動を充実させる。		
進路指導	7	進路指導体制の充実	実践目標	3年間を見据えた進路指導に対する年間計画を作成し、組織的・継続的に指導を行う。	2.7	
			改善策	進路部会や生徒への講話等を定期的に行い働きかけを増やす。		
	8	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	外部講師を活用した進路講演会、大学・短期大学と連携した分野別の講演会(放課後スペシャル)を実施する。	3.2	
		改善策	学校全体を見渡した年間計画のもとに学年が実施できるようにする。			
教職員の資質の向上	9	実践的指導力の向上	実践目標	研究授業・公開授業の実施により、お互いの指導方法について研究を行う。	2.3	
			改善策	来年度は、研究授業の機会を充実させる。		
	10	社会の変化に対応した教育観の育成	実践目標	学校の緊急の課題に関する校内研修を計画的に行う。また、職員個々に必要な資質に関する校外研修に積極的な参加を図る。	2	
		改善策	校内研修会は年間4回実施することができた。研修会の中身の充実を図る。			
危機管理体制の整備	11	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	学校の実情に応じた「危機管理マニュアル」を作成し、全職員に徹底を図る。	2.1	
			改善策	5月までに「危機管理マニュアル」を作成し、全職員の意識の向上を図る。		
	12	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を整える。	2.4	
		改善策	阪神・淡路大震災から15年が過ぎ、危機管理の意識が低下している。職員、生徒に最新の情報提供を行う。			
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	13	体験的・問題解決的な学習の展開	実践目標	インターンシップ、ワークキャンプやふれあい育児体験等の体験的な学習を実施する。	3.1
				改善策	学年との連携を強め就業意識をしっかりと持たせて参加させる。	
		14	生涯教育の視点に立った実践能力の育成	実践目標	生徒の興味・関心に応じた多様な選択科目を設定し、特色ある教育課程を編成する。	2.7
			改善策	新教育課程の研修会を実施することができたが、教育課程委員会で見直す機会を設けていく。		
	基礎・基本の定着	15	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	各教科で評価基準を設定し、それに基づいた評価を行い、その正当性の検証を行う。	2.7
				改善策	各教科で評価方法の見直しを行うことはできた。来年度は、評価基準を設定し、生徒の実態にあったものにする。	
		16	学ぶ喜びや達成感の味わえる指導法の工夫	実践目標	生徒がわかる授業への工夫・研究の推進を図る。	2.6
			改善策	教員の研修会の充実を図る。		
	総合的な学習の時間	17	教職員の協働体制の確立	実践目標	「総合的な学習検討委員会」を定期的に実施し、全職員で指導できるような体制をつくる。	2.1
		改善策	委員会を6回開き、学年毎の取り組み内容をまとめることができた。来年度は指導方法について検討をしていく。			
個に応じた学習指導の徹底	18	評価方法の創意工夫	実践目標	各教科において、それぞれの科目における評価方法について意見交換を行う。	2.4	
			改善策	各教科で、評価方法について見直しを行うことができた。		
	19	指導形態の工夫	実践目標	数学・英語・国語・家庭科の授業において習熟度別授業や少人数授業を実施し、指導方法についての研究を行う。	2.8	
		改善策	各教科会の中で、実施形態について検討していく機会を設ける。			

領域	評価の観点	番号	評価項目	実践目標と成果		評価
課題教育	防災・安全教育	20	教員の防災教育に係る指導力、実践力の向上	実践目標	防災訓練を実施すると同時に、職員それぞれが役割分担を果たすような実践的訓練を行う。	2.8
				改善策	防災訓練における生徒への事前指導を時間をかけて行う。	
	人権教育	21	実践的な安全教育への取り組み	実践目標	家庭・地域・関係機関との連携を深め、交通安全指導を強化し、自他の生命を尊重する意識を高める。	2.6
				改善策	計画的な校外指導の回数を増やす。	
人権教育	22	人権教育推進体制への取り組み	実践目標	3年間を見通した人権ホームルームを計画、実施することにより、人権教育の充実を図る。	1.8	
			改善策	生徒の実態に応じた講演会等を企画し意識の向上を図る。		
		23	確かな人権意識の育成	実践目標	人権教育推進委員会において、各学年の年間人権HRの実施計画の検討を行う。	1.8
				改善策	年度当初に、委員会を開催し年間のHR計画を作成する。	

(選択項目)

領域	評価の観点	番号	評価項目	実践目標と成果		評価
学校運営	学校運営全般	24	組織の活性化	実践目標	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談できるような職場の人間関係をつくる。	2.8
				改善策	教職員間で、気軽に相談できる環境をつくる。	
		25	校務分掌における取り組み	実践目標	年度当初に、分掌毎に重点目標を設定し、PDCAサイクルの定着を図る。	2.5
				改善策	来年度は、中間評価の実施をし、フィードバック機能の充実を図る。	
教育課程	特別活動	26	学校行事の精選	実践目標	行事検討委員会を定期的に行い、学校行事の精選と充実を図る。	2.6
				改善策	野外活動、芸術鑑賞に絞って実施についての検討を行う。	
		27	学校行事の充実	実践目標	文化祭・体育祭において、実施後は職員・生徒によるアンケートを行い、その結果を次年度にいかす。	3
				改善策	アンケートは実施することができた。アンケートの結果を来年度に反映させる。	
課題教育	情報教育	28	情報活用能力の育成	実践目標	教科情報を中心に生徒の情報活用能力の育成を図る。	2.5
				改善策	教科情報の授業における指導内容について検討する。	
		29	情報モラルの育成	実践目標	人権尊重を基盤として、プライバシーの保護や著作権の尊重等を考えさせ、出会い系サイト等に潜む危険について指導する。	2.2
				改善策	生徒指導部と教科情報の授業と連携を図る。	
	体験活動	30	高校生地域貢献事業の推進	実践目標	「クリーン＆グリーン作戦」を年間3回実施し、奉仕の精神、環境美化に関する意識の向上を図る。	2.9
				改善策	年間3回実施することができた。来年度は、実施内容の検討と生徒への意義をしっかりと説明を行う。	

(学校独自項目)

領域	評価の観点	番号	評価項目	実践目標と成果		評価
課題教育	学校の個性化・多様化	31	特色類型設置に向けての取り組み	実践目標	将来構想委員会を定期的に行い、来年度から設置の「医療・看護・保育」類型において、特色ある教育課程の編成を行う。	3.1
				改善策	大枠は確定したが、2年生からの学校設定科目の中身、実施方法の検討を行う。	
				実践目標	大学・短期大学等の連携校を確立し、具体的な中身について検討する。	2.8
改善策	連携校は、4大学確定した。2年生からの「学校設定科目」の内容を決定し、連携校に依頼をする。					
		33		実践目標	学校説明会・オープンハイスクールを年間3日間実施し、中学生・保護者・地域住民に周知できるように広報活動を行う。	3.1
				改善策	年間3日間実施することができた。来年度は、8月の特色選抜の説明会は、体験授業・部活動見学の内容の充実を図り、200名の参加を目指す。	